身体的拘束最小化に関する取り組み事項

1．身体的拘束最小化に関する基本的な考え方

北斗わかば病院の病院理念のもと「患者様の権利」において、人権が公平に尊重される権利を保障しています。そのため、身体的・精神的に弊害をもたらすおそれのある身体的拘束は、緊急やむを得ない場合を除き、原則として実施しません。

２．身体的拘束最小化のための体制

以下の取り組みを継続的に実施し、身体的拘束の最小化のための体制を維持・強化します。

当院の身体的拘束の最小化を目指すための取り組み等の確認、改善を検討します。特に緊急やむを得ない理由から身体的拘束を実施した、またはしている場合の身体的拘束実施状況や適正性についての検討を行います。身体的拘束最小化委員会は毎月１回定期的に開催します。また、身体的拘束を行われている患者様がいる場合、最小化チームによる巡回を定期的に行います。

３．身体的拘束最小化のための職員の教育及び講習

委員会は、身体的拘束が起こらないよう事前の措置として、職員の身体的拘束最小化の意識の向上や知識を周知し、身体的拘束のない環境づくりを目指します。

全職員を対象とした身体的拘束に関する教育研修を定期開催します。（年２回以上：新採用者研修においては必ず実施します）

４．身体的拘束を行わずにケアを行うために ＜３つの原則＞

身体的拘束をせずにケアを行うためには、身体的拘束を行わざるを得なくなる原因を特定し、その原因を除去するためにケアを見直すことが求められています。そのため以下の＜３つの原則＞に取り組みます。

＜１＞　身体的拘束を誘発する原因の特定と除去

必ずその人なりの理由や原因があり、ケアする側の関わり方や環境に問題がある事も少なくありません。そのためその人なりの理由や原因を徹底的に探り、除去するケアが必要です。

＜２＞　５つの基本的ケアの徹底

基本的なケアを十分に行い、生活のリズムを整えます。

（１）５つの基本的ケア

① 起きる

人間は座っているとき、重力が上からかかることにより覚醒する。目が開き、耳が聞こえ、自分の周囲で起こっていることがわかるようになる。これは仰臥して天井を見ていたのではわからない。起きるのを助けることは人間らしさを追求する第一歩である。

② 食べる

人にとって食べることは楽しみや生きがいであり、脱水予防、感染予防にもなり、点滴や経管栄養が不要になる。食べることはケアの基本である。

③ 排泄する

なるべくトイレで排泄してもらうことを基本に考える。おむつを使用している人については、随時交換が重要である。おむつに排泄物が付いたままになっていると気持ち悪く、「おむついじり」などの行為に繋がることになる。

④ 清潔にする

きちんと風呂に入る事が基本である。皮膚が不潔なことがかゆみの原因になり、そのために大声をだしたり、夜眠れずに不穏になったりすることになる。皮膚をきれいにすることで本人も快適になり、周囲もケアしやすくなり、人間関係も良好になる。

⑤ 活動する（アクティビィティ）

その人の状態や生活歴にあったよい刺激を提供することが重要である。その人らしさを追求するうえで心地よい刺激が必要である。

＜３＞　よりよいケアの実現を目標とする

身体的拘束廃止を実現していく取り組みは、院内におけるケア全体の向上や生活環境の改善のきっかけとなり得る可能性があります。「身体的拘束廃止」を最終ゴールとせず、身体的拘束を廃止していく過程で、提起されたさまざまな課題を真摯に受け止め、よりよいケアの実現に取り組んでいくこととします。

２０２６年４月６日　北斗わかば病院　病院長